

経営比較分析表（令和4年度決算）

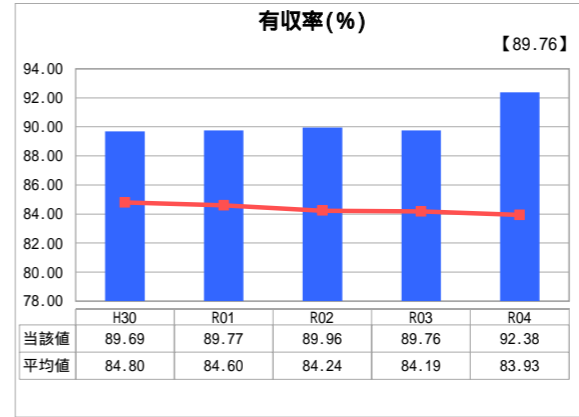
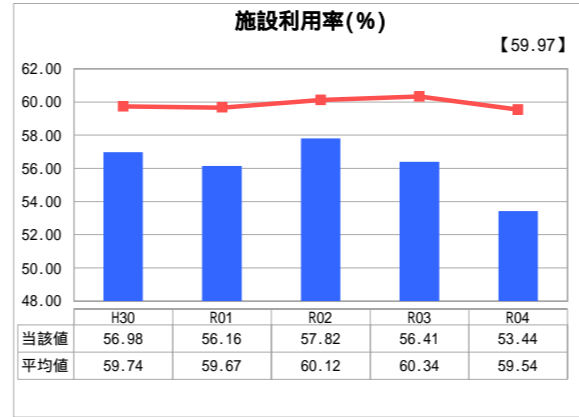
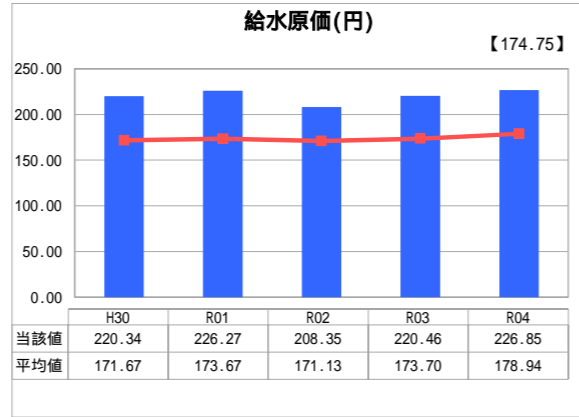
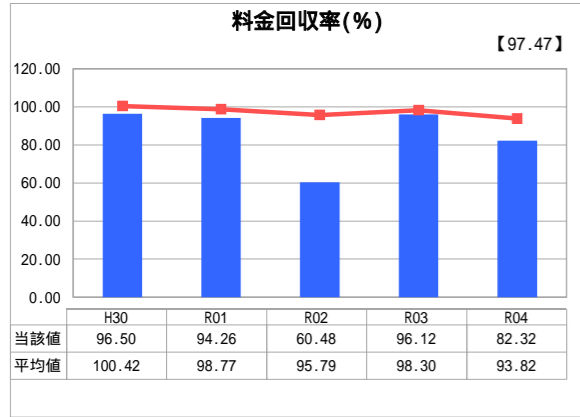
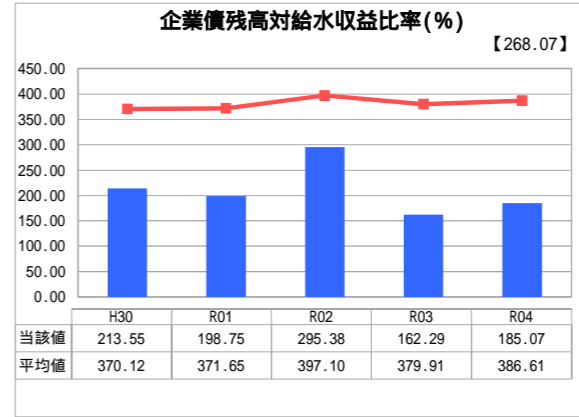
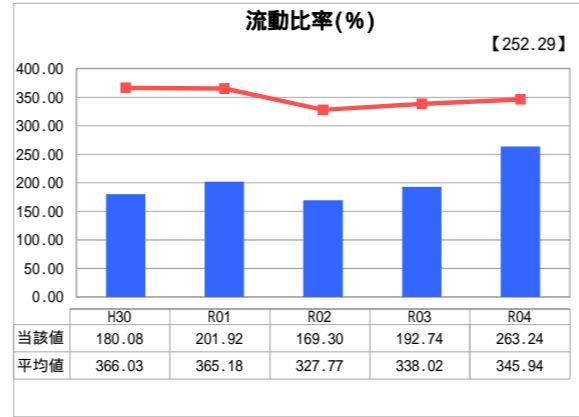
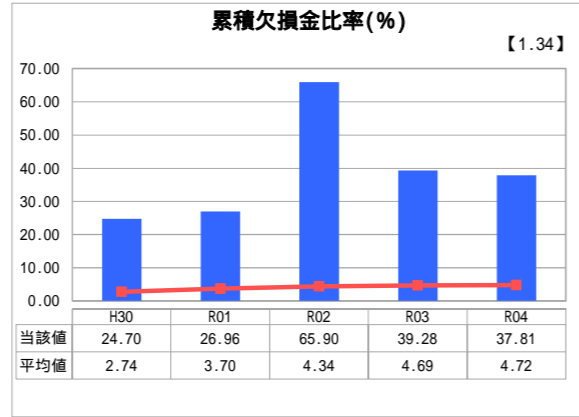
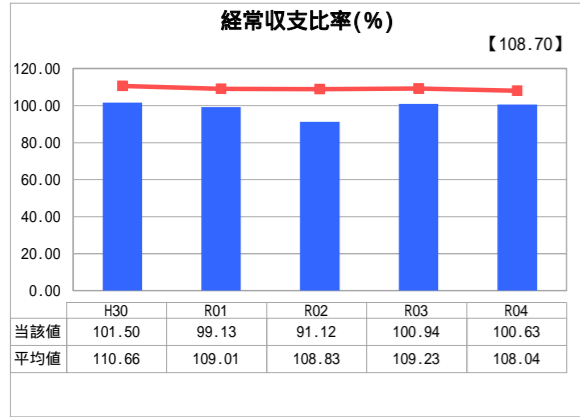
兵庫県 西脇市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	88.57	98.80	2,035	

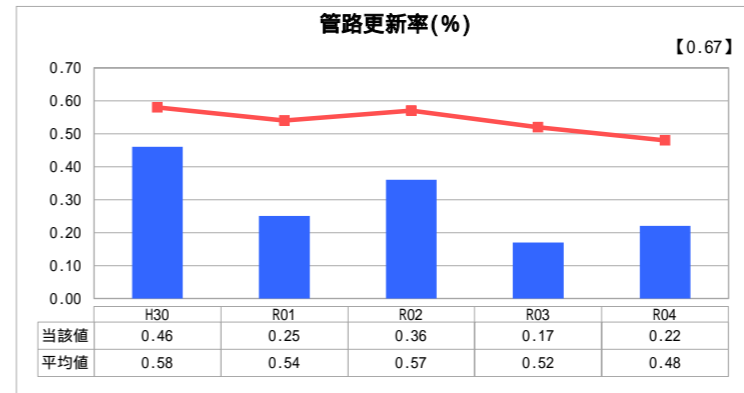
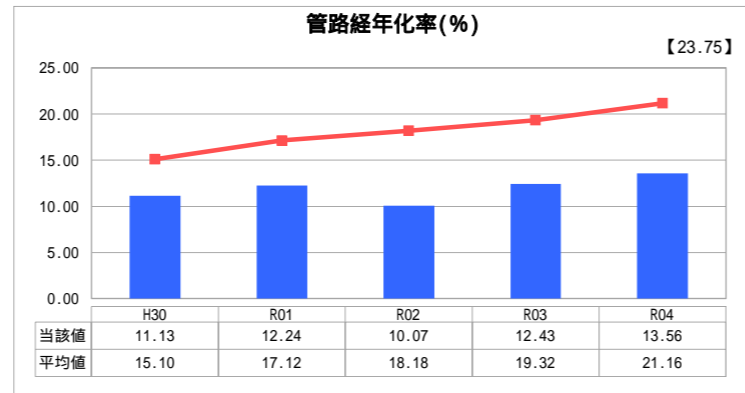
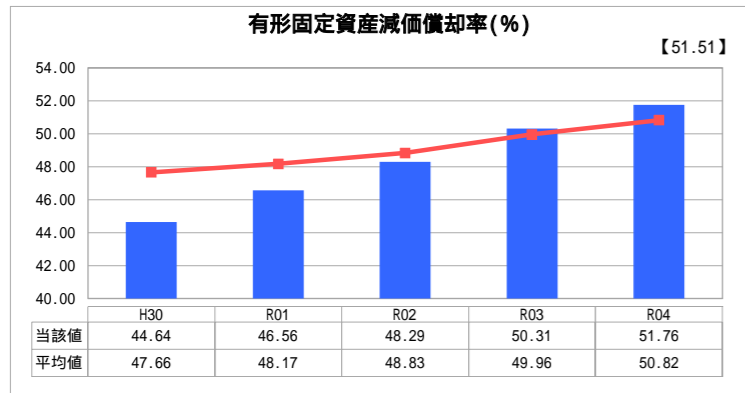
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
38,716	132.44	292.33
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
38,088	111.57	341.38

グラフ凡例
当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和4年度は、使用者負担の公平性と市民の経済的負担の軽減のため、令和5年1月検針分から家庭用水道料金の基本料金及び従量料金の改定を行い、更に新型コロナウイルス感染症対策として2か月間の水道料金免除施策を実施したことから、料金収入が減少し、その結果、経常収支比率、料金回収率は悪化しています。

料金収入の減少に対し、国の地方創生臨時交付金の投入に加え、事業の効率化と経費削減に努めた結果、前年度に引き続き黒字決算となり、累積欠損金比率は良好化しています。

全国平均及び類似団体平均と比較して、給水原価が高い水準にあります。このような経営状況を踏まえ、令和4年度に改定した水道ビジョン・経営戦略に基づき、施設の統廃合、廃止を順次進め、維持管理経費を抑制してまいります。（経営指標参照）

現金残高の増加等により、流動比率は上昇傾向にあります。企業債残高対給水収益比率は、水道ビジョン・経営戦略において投資額から国庫補助金等の財源を差し引いた額の20%を企業債の借入限度額としており、新たな借り入れを抑制しました。現在実施している施設の統廃合、廃止に加え、漏水調査を定期的に行い、予防保全と効率的な水道水の供給に努めます。（経営指標参照）

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、年々上昇傾向にあります。予防保全と事後保全に対応できる施設に分類し、施設更新時期が集中しないよう計画的に整備を進めてまいります。（経営指標参照）

管路経年率は、全国平均及び類似団体平均よりも低い数値で推移しています。法定耐用年数を超える管路を把握し、鉄道や道路管理者等関係機関と綿密に調整を行い、老朽管の早期管路更新に努めています。（経営指標参照）

管路更新率は、全国平均及び類似団体平均を下回っています。本市では重要給水施設（基幹病院、指定避難所）への配管から更新を進めており、選択と集中による効率的な老朽管更新工事を実施しています。（経営指標参照）

全体総括

本市では、近年、県営水道の受水施設整備や浄水場新設工事、管路の耐震化工事などの施設整備を積極的に進めてきた結果、減価償却費の増加により経営指標が悪化しています。また、人口減少等の影響により料金収入も減少傾向にあります。

このような状況を踏まえ、令和4年7月に水道ビジョン・経営戦略を改定しました。今回の改定では、財務体質の強化、耐震化の推進、危機管理体制の充実を優先施策目標に位置付け、継続的に実施します。また、施設更新に優先順位をつけ、的確かつ効率よく運営してまいります。

加えて、使用者負担の公平性と市民の経済的負担の軽減のため、令和5年1月検針分から家庭用水道料金の基本料金及び従量料金の改定を行ったことから、今後の料金収入にも注視しつつ、更なる事業の効率化及び経費節減に努めます。